

福井県陽子線治療施設及び福井県済生会緩和ケア病棟見学記

2010年4月20日

がんピアサポーター
NPO 法人ミーネット運営サポーター 伊藤和直

2010年4月17日（土） NPO法人ミーネット花井代表をはじめ、スタッフ及びピアサポーターの総勢6名で福井県にある、福井県立病院の陽子線治療施設及び済生会病院緩和ケア病棟の見学に出向いた。

参加メンバーは、伊藤・加藤・神谷・高尾・浅井・花井の6人。

1. 福井県立病院 陽子線治療施設

福井県立病院の陽子線治療施設は来年3月の稼働を目指しており、既に治療装置の設置が完了し、現在製造会社(三菱電機)により治療開始に向けた装置の調整中である。

本格稼働の前段階として、本年4月中に4日間に分けて福井県民に陽子線治療施設を公開し、県民に最先端のがん治療の有用性をアピールしている。我々が出向いた4月17日には350名の見学者が訪れたと聞き、県民のがん治療に対する関心の高さが窺えた。



陽子線治療施設の建物の中に入り、曲がりくねった通路(放射線を外に逃がさない工夫)を抜けると、案内されたのは陽子線治療装置の裏側である。ここでは工場さながらの、機械音を響かせた、想像以上に壮大な陽子を加速する加速器の姿を目の当たりにした。

陽子は水素原子をイオン化する装置を出て、線形加速器で加速され、更にシンクロトロン加速器(陽子を周波数の高い電界で電磁石で曲げながら加速

する装置)で光の約70%(1秒間に地球を約5周)に加速され陽子線となって照射装置に導かれる。

陽子線照射室は3室あり、水平照射室が1室で、ここは照射方向が一定で、主に前立腺がんの治療に使用される。他に回転ガントリー照射室が2室あり、ここ



は照射装置を360度回転させ、最適な角度から陽子線を照射することが出来、前立腺がん以外の頭頸部、肺、肝臓がんなどの治療に適する。

また3室あるうちの治療室3にはCTが併設され、照射部位の精度確保には余念が無いことが窺えた。

回転ガントリー照射室の裏側に案内され、回転機構を生むガントリーの巨大さに圧倒された。ガントリーは全長・高さともに約10mの円筒形で、

総重量は約170tにもなる大きな装置にもかかわらず、回転の誤差が1mm以下の高精度であると感じ、驚嘆するばかりであった。



陽子線治療に際して治療時間は 20～30 分であるが実際の照射時間は 1 分足らずで、年間 1000 人の治療が可能。

治療方針として、陽子線治療可能ながん種及び適応症例を標準化し、これに該当する場合は他の治療法に拘らず、患者の希望に添って陽子線治療を適用する予定とのこと。

また現在陽子線治療の拡大を目的に保険会社 21 社と提携し、他県からの患者受け入れも視野に入れ、交通費、宿泊費など含めた保険も検討依頼中とのことであった。

今回の見学で、治療費は約 240 万円に設定予定と聞き、福井県立病院の治療条件を考えれば、2014 年開設予定の名古屋市の陽子線治療施設開設を待たずして、がん患者として、治療の選択肢が広がりそうな予感がしたのは私だけであろうか。

2. 福井県済生会病院 緩和ケア病棟

福井済生会病院は J R 福井駅から車で 10～15 分の長閑な田園風景を臨む場所にある。病床数 466 床を有するこの病院は、がんの包括的診療を目指し、1988 年のホスピス建設以来、緩和ケアに力を入れた、がん診療拠点病院として、専門性の高い医療を追求している。



ホスピス病棟「愛の家済生」への入り口をくぐると、まず目の前にアトリウムが広がる。そこにはせせらぎが流れ、天井から燦燦と光を受けた自然の木々が立ち並ぶ、室内でありながら、あたかも公園にいるような錯覚に陥る心安らぐ空間がある。

病床数は 20 床で、各個室からは中庭が望め、アトリウムでは家族や友人と心ゆくまで談話が楽しめ、また定期的にボランティアによるコンサートも催されるようである。

この緩和ケア病棟に入所すれば、病院に居ながら家庭にいるような雰囲気味わえ、患者としては、その人らしい療養生活がおくれる事受け合いと感じた。

緩和ケア病棟の見学だけで、福井済生会病院のがん診療拠点病院としての意気込み全てを表しているように思えた。